

社会福祉法人 東京有隣会

有隣

YURIN

2024.5

(令和6年)



新入職員を迎えて！

令和六年四月一日付で、東京有隣会は、病院に理学療法士や看護師等新入職員十九名を採用しました。

この皆さんが当法人を選んだことには、それぞれのキャリアの将来のために、大きな意味があると思います。

100年の伝統と歴史があり、強い地域の信頼と期待に支えられていること、伝統の上に立って、新たな時代の要請に向けて地域福祉現場の最先端で仕事ができることです。

未来に大きく貢献していくためには、地域社会の理解と協力と、明るい組織を支える優れた職員の存在が必要です。良い先輩などと常に連携しながら自らの実力を伸ばしていく姿勢を堅持して欲しいと思います。

この職場環境の中で、今日から地域の福祉に貢献する第一線の戦力としての活動を期待します。地域や関係機関の皆様のご理解もお願い申し上げます。



東京有隣会

理事長 奥 典之

東京有隣会

法人のロゴマークが決まりました！

東京有隣会では、全職員参加の下で公募、選定を行い、以下の通り決定しました。今後は広く法人の愛されるシンボルとして、広報活動等に使用してまいります。

作成者の太田洋子さん（有隣病院）に解説していただきました。



鳥は「幸福」や「飛躍」の象徴として、多くの人々に親しまれています。軽やかに空を舞う鳥たちは、その羽根に幸運を乗せているイメージがあり『幸運の訪れ』を表現しています。鳥の中のYURIN(有隣)の文字は・生命力・エコ・自然をイメージして、芽吹く双葉で表現しました。働く職員をはじめ、地域の方々にとって多くの幸福が訪れ、また持続可能な未来を築くための場所でありたいと願いを込めました。

〽新棟建設について〽

現在、新棟建設は二〇二四年九月竣工に向けて工事を進めているところです。病院と特養老人ホームが一体となった施設で東京都初の合築施設です。施設の機能は1F〜3Fが有隣病院、4F〜5Fが第2有隣ホームとなります。



有隣ホーム

〽笑顔あふれた
お花見会に
なりました〽



春の陽光が心地よく身体を包み込む季節がやってまいりました。

春は新たな始まりの季節で、希望と活力が芽生える時期です。

お元気で過ごしましょうか。

これまで、新型コロナウイルス感染症による制限が多くありましたが、それも五類となったことで感染対策も見直しをしております。

そこでこの春の息吹を皆様感じていただこうと、数年ぶりとなる桜の『ちよこつと花見会』を実施いたしました。

少し風が冷たく感じることもありましたが、皆様とても気持ち良いと「ニコニコ」顔で満喫して下さいました。

今後も季節を肌で感じていただけるような行事を行っていきたくと考えております。





第2有隣ホーム

♪笑顔で一年を
過ごしましょう♪

寒い冬が終わりようやく暖かくなってまいりました。年が明けてからも季節に応じた催しをさせてもらいながら入居者様の日々の生活が充実したのになります。職員一同励んでいます。今年も短い期間ではありましたがお花見散歩にも行く事ができました。入居者様も春の訪れを感じる事ができ大変喜んでおられました。



面会方法も少しずつ緩和する事ができ、ようやく通常の『ホーム』に戻りつつあります。ボランティアの方々も来られる事が多くなり、自然と施設内には笑い声が多くなってきたように感じます。今後も様々な皆様のご協力を得ながら、入居者様の生活が豊かになるよう努めてまいりたいと思います。



有隣ケアセンター

♪より明るいデイサービスを目指しています♪

今年は桜の満開とともに新年度を迎えることができました。気温の変化が激しく、過ごしていくに気候ではありますが、元気に通って下さる利用者の方々に我々も活力を頂いております。さて、ケアセンターでは二月三月に季節の行事「節分」と「ひなまつり」、四月に「お花見」の行事を開催しました。節分では鬼への豆まきや的当て、ひなまつりでは貝合わせやおひな様引き競争など、時期に合わせたレクリエーションを実施しております。



デイサービスでは通所中の外出に制約があるため、お花見行事は、室内で行いました。フロアいっぱいに飾り付けた桜飾りの下、利用者の皆さまにも参加していただいて「花咲爺」の寸劇や、特別な飲み物としてノンアルコールビールなどを提供し、宴会の気分を味わっていただきました。有隣ケアセンターでは季節を感じながら体をよく動かしていただけるようなプログラムを用意して、お待ちしております。



有隣病院

有隣病院教育委員会主催 研究発表会

二月十四日、東京有隣会の第五回研究発表会を開催しました。病院、施設の様々な職種の職員から、十の症例や事案に関する成果や考察が発表されました。

法人の役員や職員はもとより、今回、当法人と協力協定を締結している世田谷区社会福祉事業団の方々も初めて傍聴され、闊達な質疑が交わられました。

今後も医療、介護の連携や、地域連携に十分留意しながら、技量の向上に取り組んでいきます。



船橋会防災体験ラリーに参加しました

三月九日（土）に船橋会防災体験ラリーに参加しました。当院では、船橋地区会館でご家庭にある物（手提げビニール袋、雑誌、ガムテープなど）を使った応急処置の方法をデモンストレーションし、多くの方に体験していただきました。

電子カルテを導入しました

四月一日（月）から「電子カルテシステム」を導入いたしました。これにより院内の情報共有や伝達がスムーズになり、効率的な診療が可能となることで、患者さんへのサービス向上に繋がると考えております。導入にあたりましては操作研修やリハーサルなどを行っておりますが導入当初は想定外のトラブルやシステム操作の不慣れにより、一時的に受付や診療・会計などお時間を要するなど混乱が予想されるため、何かとご迷惑をおかけ致しますが、ご理解とご協力をお願い致します。

健康コラム

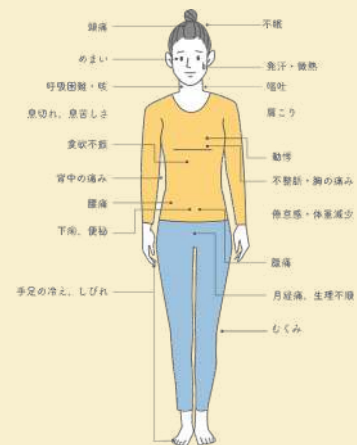


季節の変わり目に起こる体調不良に注意

季節の変わり目には、人によっては肩こりや関節痛がひどくなったり、体調の変化が起こりやすくなったりします。これらの症状や病気の多くが「自律神経の乱れ」と関係しているようです。季節の変わり目に発症しがちな症状の対策や、自律神経との関係を解説します。

季節の変わり目に起こる体調不良の原因として、第一に挙げられるのが、天候や気圧などの自然環境の変化です。

春から夏では、梅雨の湿度上昇・不安定な気圧・日照時間の延長など、このような天気や気温・湿度の変化や気圧の変動は、人の体に動悸や息苦しさなどをもたらしたりして、ストレスとして直接的に影響を及ぼします。また、植物や昆虫などの成長や繁殖を介して、人の健康に影響を及ぼすこともあります。例えば、春の花粉症などがあります。季節の変わり目の不調には、自律神経のバランスが乱れてしまうことの影響が大きいと考えられています。自律神経のバランスの乱れは、その人の弱い部分に現れやすいものです。例えば、飛行機に乗った時に頭痛を感じやすい人は、気圧が急変しやすい時期にも頭痛が起きやすくなる可能性ががあります。また、雨が降る前に関節や古傷が痛むという人もいます。そのため「気象病」「天気痛」などと呼ばれるてい



ます。頭痛や関節痛の他、微熱、咳、肩こり、めまい、吐き気、倦怠感、不眠、肌荒れ、鼻づまりなども、気象病や天気痛の症状として挙げられます。季節の変わり目に起こる体調不良の対策と対処法として

- ① バランスの良い食事、特にビタミンB群不足に気をつける
 - ② 適切な睡眠時間の確保と朝の太陽
 - ③ 適度な運動を習慣的に続ける
 - ④ 姿勢を見直し、腹式呼吸
 - ⑤ 寒暖差を小さくする
 - ⑥ 湯船につかる
 - ⑦ 花粉症の対策を行う
 - ⑧ 自律神経を整えるツボを押す
- 症状が長く続く場合は、医療機関を受診して下さい。
- ご自身の体調不良に季節の変化が関係しているのではないかと思ったら、季節の変わり目の前に少し早めに対策を立ててみてください。

